

京橋の印刷

9月25日1998・No.101

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 3552-1855
FAX 3297-3790
http://www.threelight.co.jp
kyobashi@blve.ocn.ne.jp
発行人 水野 雅生

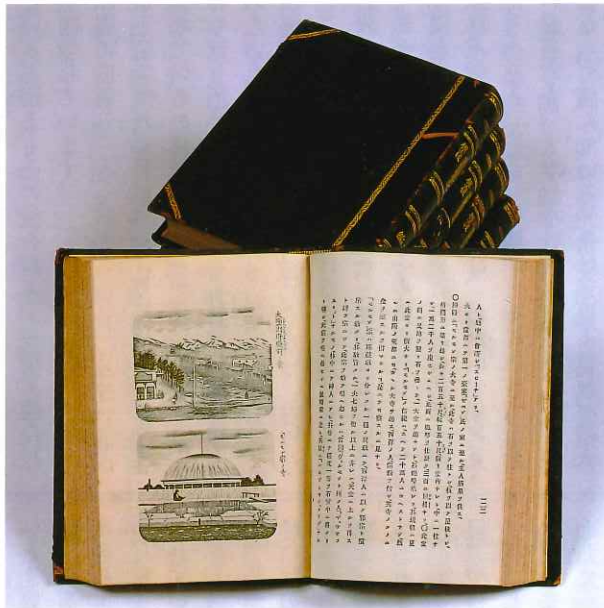
―活字の重み―

江戸の後期から明治にかけて長崎が日本の印刷発祥の地とされている。本木昌造、平野富二のお

二人によって新しい我が国の活字が生みだされるまでは、瓦版の域を脱していない。しかしそうしたものをふくめて言葉をプリントするということは、高度な文化を開花させる足がかりであると思う。印刷の発達と同時に教育の向上が計られ、情報の高高度化が急進したのは云うまでもない。

岩倉使節団は明治四年から六年にかけて、右大臣岩倉具視を全権大使に、副使として伊藤博文・大久保利通・

木戸孝充を従え以下明治政府の実力者を含む総勢五十名の大使節団で構成され、明治四年十二月六日にサンフランシスコに第一歩を押し、雪のロッキーを越え大陸を横断してワシントンに赴き明治



特命全権大使・米欧回覧実記 全5巻 明治11年刊
(印刷を科学する ルーペで見ると文字が読めます。HiPRITEX600)

五年七月三日ボストンよりイギリスへと向かっている。米国ではデモクラシー、イギリスでは議会政治、ドイツでは法律等を学ぶ一年八ヶ月にも及ぶ視察旅行である。米

欧回覧実記はその報告書である。本書に使用されたのが、後に築地明朝体と云われ、わが国最初の洋式活字と言われている。久米邦武が編纂し銀座四丁目にあった博聞社から刊行されている。各地の絵を銅板画で刷り、その印刷技術は実に鮮明で、それまでの木版に比ぶべきでもない程である。この活字を創り出すまでの本木昌造、平野富二の生涯に亘る努力と苦心は業界の皆さんはご承知の通りだが、残念である。

支部長 水野 雅生

(ミズノプリンティングミュージアム館長)

改めて印刷を考える

京橋支部 支部長 水野 雅生

■古書に現れた本木昌造翁

肥前大村藩の人で、大阪に出て緒方洪庵の門に入って医学を学び、後年には東京医学学校長や衛生局長等を歴任、わが国の医学に大変功績のあった長興専斉という人の書物に『松香私志』があります。昨年たまたまその書物を手にする機会があって、何気なく読んでいる中に、次のような箇所に行き当たり驚いたことがあります。それは、長崎に本木昌造という人がある……中略……昌造がある時、余に向かつていうには、近來世の中が開けるにつれて、学問が軽薄に流れて、骨惜しみをするようになっています。あなたは学塾を開いてはどうかということです。本木家の持つ外浦町の借家で通塾を始めた。これが文久二年のことです」という文章で、私が知っている本木昌造は、活字鑄造技術の先駆者であり、近代日本の印刷の父であるというくらいでしたので、改めて本木昌造という人の別の優れた立像が浮かび上がって来ました。この洋学者本木昌造は一般には余り知る人はおりませんが、維新後新政府の役人として、長崎にわが国で始めて鉄橋を架けたりしましたが、明治三年に活字を鑄造して今日の印刷技術の基を作った人として、私も印刷業界では忘れられない人です。五二歳の若さで亡くなっていますが、

門人平野富二（築地活版製造所を創始し、後に石川島に造船所を造り一〇八隻の艦船を進水させている）がよくその後を継ぎ、一層高度な技術を開発しています。

■印刷の価値

最近活字離れが目につき、ワープロが利用度を高めているのは結構なことですが、それと同時にやはり活字に親しむことも日常生活の中で努めたいと思います。

出版はその国の文化のバロメーターといわれ、グーテンベルグ以来受け継がれて、正に文化の旗手としての役目を果たしていると思います。わが国の出版部数は、今や世界の一、二を競うほどになっています。数百万部の新聞や雑誌が日々発行されている国は、わが国の他に見当たりません。しかし、問題はその内容で、分厚い劇画本を、大学生や社会人が電車の中で夢中になって読んでいる光景は、ヨーロッパの人達には実に異様に映っているようです。読みおわるとポイと網棚の上に放り上げて帰っている。これなどは外国人でなくとも立派な行為とは思えません。文化の水準を云々する以前の、生活する基準から随分と外れているのではないのでしょうか。

■誇りを持って

何を選び、何を学ぶかということこそ、読書の基本であり、そうした軌跡を辿りながら自己形成をなし遂げていくという道こそ、大切なのではないかと思います。何やら牽強附会の言辭になってしまいましたが、印刷業界も文化を演出する出版界の一翼を荷なう身として、日々新たな技術革新を試みながら皆様のお役に立ちたいと念願しております。

■支部事業について

今やエレクトロニクスの急速な進展にともない、電子化の波に如何に対応していくか強く迫られています。本年度五月、京橋支部では新執行部がスタートしたばかりですが、歴代支部長のご指導の下に開始したところでございます。特に都の活性化対策補助金を活用した「DTP電子化教育」には、多くの組合員に積極参加を頂き、組合事業に貢献出来ていることを自負しております。またこの秋に迫って参りました「第一〇回 九八年中央区産業文化展」（通称へそ展）ではマルチメディアの時代に地場産業として相応しい展示会にして行くべく協力をしたいと思っております。そこで「産業文化展第一〇回記念」として「印刷発祥の地」としての展示を検討する中で、グーテンベルグ四二行聖書ほか歴史的に貴重な印刷文献の展示をして区民をはじめ、多くの都民の方々に、より深く印刷を理解して頂き、とりわけ未来を担う青少年の学習の一助となれば幸いです。区内産業の一層の振興・発展に寄与するために、組合員の皆様には是非ご協力頂きますようお願い申し上げます。

平成10年度通常総会開催

於・銀座東急ホテル

5月18日(月)18時より、銀座東急ホテルに於いて、恒例の京橋支部平成10年度通常総会が開催されました。

永井副支部長の司会で、福田副支部長が開会のことばを述べて始まり、十文字支部長が執行部を代表し、次のような挨拶を行いました。

京橋印刷工業組合



「本日は京橋支部平成10年度通常総会に、ご来賓をはじめ、90有余名の支部組合員の皆様方のご参集を賜わり、厚く御礼を申し上げます。中でも先の東京都印刷工業組合総代会で新しい理事長になられた中村理事長がいの一歩にこの総会に馳せ参じて下さったことに併せて心より御礼を申し上げます。顧みますと、この2年間は社会的にも印刷業界にとりましても激動の時代でございました。わが国を覆う出口の見えない不況の中で、私達は悪戦苦闘を余儀なくされ、一方で待ったなしの電子化の大波を正面から受けつつ必死で吸収しようと健闘してきました。このような環境の中で、東京都や中央区の助成を受けつつ精力的に電子化研修会を行いました。時宜を得た機会に出来たものと存じます。

激動の波を乗り越えるための諸施策に、いくばくかの成果ありとしますれば、優秀で才能豊かな執行部スタッフと、各地区選りすぐりの地区長の皆様方のお力添えのお陰だと申し上げたく存じます。京橋支部も創立四分三世紀の歴史を刻んで参りました。一世紀に向けて益々の発展を願わずにはられません。最後に私達に対する支部組合員の皆様方のご協力に感謝を申し

上げ退任の挨拶をいたします。」と挨拶があり盛大な拍手を受けました。

続いて議長・副議長の選出に移り、執行部一任の声により、八丁堀地区長・榎相互美術印刷本社小倉昭夫、湊地区長・西和印刷(株)西山昇の両氏が議長・副議長に選出されました。

小倉議長の議事進行で第一号議案・平成9年度事業報告、第二号議案・平成9年度収支決算報告並びに平成9年度監査報告は関連議案であることから一括上程され、事業報告は榎本副支部長、収支決算報告は山崎副支部長、同監査報告は山内・宇津木両監査より報告があり、いずれも大きな拍手で可決承認されました。続いて第三号議案・平成10年度事業計画案、第四号の平成10年度収支予算案も一括上程となり、第三号議案は榎本副支部長、第四号議案は山崎副支部長より説明があり異議なく採決されました。

次に第五号議案・次期役員承認では推薦委員会、石澤委員長より新執行部役員名が読み上げられ、小倉議長の承認を求めると、盛大な拍手で承認されました。

次に水野新支部長が挨拶し「只今推薦委員会よりのご推薦とご出席の皆様のご承認により新しく支部長になりました水野でございます。大変伝統のある京橋支部の支部長にご推挙いただきました。大変光栄に存じますとともにその責任重大さに身の引き締まる思いで一杯でございます。大変すばらしく、有能な荒川支部長、十文字支部長の後を受けて、この支部事業を行う

ことは大変プレッシャーを感じておりますが、幸いなことに、すばらしい執行部スタッフのご推薦をいただきましたので、このスタッフの力添えをいただいで支部事業に取り組んでいきたいと思ひます。何卒皆様方のご協力をお願いいたします。」と支部長就任の挨拶がありました。

続いて新執行部全員が壇上に立ち、水野新支部長が紹介を行い、大きな拍手を受けました。全ての議事が終了のあと、永年東印工組の副理事長をお務めになりました田嶋一弥氏、同じく常務理事を務められた篠倉正信氏が支部功勞者として十文字支部長より感謝状が読み上げられ記念品を添え贈られました。

感謝状

株式会社久栄社
取締役社長 田嶋一弥殿

あなたは新しい技術への対応と企業環境の整備改善を標榜する東京都印刷工業組合にあって常務理事として二期四年副理事長として四期八年に亘り献身せられ併せて当支部に対して大局的視点から私達が置かれている現況への認識と各々が支部の矜持を保つべき意識の高揚にご配慮を賜りその成果は大きく実りつつあります。ここにそのご功績に対し深甚なる敬意と共に感謝の意を表します。

平成十年五月十八日

東京都印刷工業組合京橋支部
支部長 十文字康雄

感謝状

株式会社デイゲ
取締役社長 篠倉正信殿

あなたは新しい技術への対応と企業環境の整備改善を標榜する東京都印刷工業組合にあって常務理事として二期四年に亘り献身せられ併せて当支部に対して大局的視点から私達が置かれている現況への認識と各々が支部の矜持を保つべき意識の高揚にご配慮を賜りその成果は大きく実りつつあります。

ここにそのご功績に対し深甚なる敬意と共に感謝の意を表します。

平成十年五月十八日

東京都印刷工業組合京橋支部
支部長 十文字康雄

このあと、来賓挨拶として、5月15日に行われた東印工組通常総代会において新理事長になられたばかりの中村守利東印工組理事長が挨拶され、就任して最初の仕事がこの総会であることは京橋支部で印刷界に入り、京橋支部の先輩に育てられて京橋から巣立った者にとって、まさに古巣に帰って来た思いであり、望外の喜びで感激していると述べられたあと、東印工組理事長としてスタートするにあたり、その抱負と理念を力説されました。

次に中央区工業団体連合会の小葉副会長が祝詞を述べられました。

続いて中央区商工課の斎藤裕文課長、東製工組京橋支部の岸田俊辰支部長、東印工組日本橋

業組合京橋支部



支部の石川保夫支部長が司会の永井副支部長より紹介され、総会最後は山内監査の閉会のことばで閉会となりました。

続いて隣室で懇親パーティが行われました。進行は青柳副支部長が務め、まず十文字前支部長が挨拶を行い、本日出席の関連業界の方々から水野新支部長を紹介し、水野新支部長からは新執行部を紹介し幕を開けました。

公務の都合で総会に出席の出来なかつた中央区の矢田区長が来賓挨拶を行い、また関連業界を代表して東製工組京橋支部長の岸田俊辰氏が挨拶をされた後、本部副理事長として長年活躍され今度退任された田嶋一弥顧問による乾杯の発声一同これに和して祝杯をあげました。

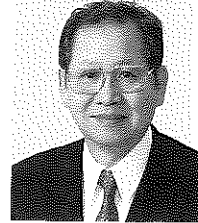
歓談タイムも盛り上がり関連業界の方々との紹介へと移り、自己紹介の形で壇上で行い支部組合員

平成10・11年度京橋支部新役員

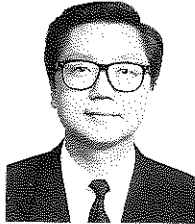
副支部長
花崎博己
大東印刷工芸(株)
(総務)



支部長
水野雅生
ミズノブリテック(株)



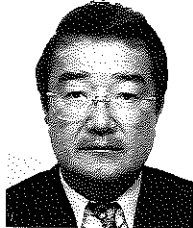
副支部長
松岡誠一郎
(株)文海堂
(総務)



副支部長
宇野一男
宇野印刷(株)
(総務)



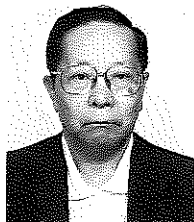
副支部長
西山昇
西和印刷(株)
(総務)



副支部長
石澤勉
石澤印刷(株)
(会計)



監査
春原英夫
(有)すのはら印刷所

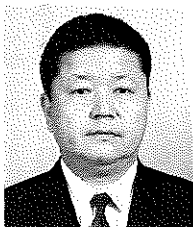


監査
小澤勤
大日本ピーアール(株)



平成10・11年度京橋支部新地区長

銀座地区長
山中孝夫
正栄堂印刷(株)



京橋地区長
山口順治
(地区OB)



築地地区長
神田範世
永和堂(株)



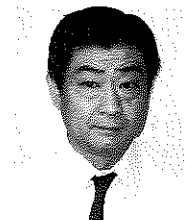
新富地区長
中村憲吉
日本精版印刷(株)



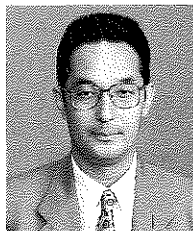
湊地区長
八代東海夫
八代印刷工業(株)



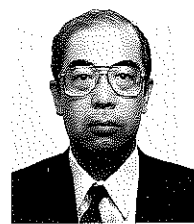
入船地区長
長崎茂
長崎印刷(株)



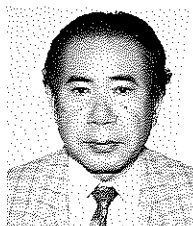
新川地区長
小山俊樹
高千穂印刷(株)



八丁堀地区長
小倉昭夫
(株)相互美術印刷本社



事務局書記
横田俊美
京橋支部



月島地区長
石井精二郎
安信印刷工業(株)



京青会(京橋支部印刷人青年会) 会長就任にあたり

(株)森山印刷
森山照明

本年4月22日、築地スエヒロ別館にて開催された通常総会におきまして、前会長の小宮山氏より会長という大役を引き受けることになりました森山でございます。

京青会(京橋支部印刷人青年会)も本年創立20年を迎え、多くの先輩方の努力と支部の皆様方のご支援により活動してまいりました。

21世紀を目前にした今、印刷業界は急速にデジタル化が進み、技術と受注の形態が変わり大きなうねりの中にいます。また、先行き不透明な経済情勢に不安を隠せない状況です。

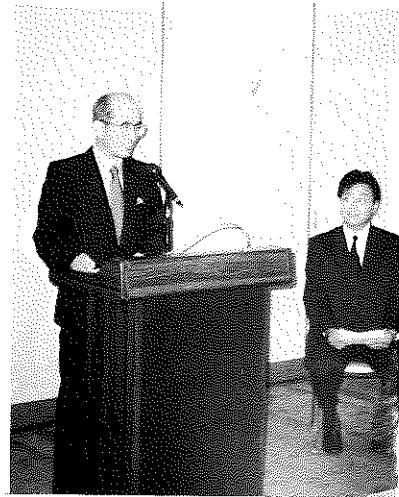
そのようななか、我々京青会でも時代に乗り遅れることのないように勉強会、研修会等を重ね知識を深めてまいります。

また、この京青会をそれぞれの会社での立場をこえ同じ業界で働く将来の経営者・後継者として、語り合い、情報交換、情報収集の場として歴史会長を見習い充実した会にしていきたいと思っております。

最後になりましたが、京青会では多くの仲間を求めていますのでお知り合いの方がいらっしやいましたら、私たちにご紹介下さい。

今後も京青会の活動に対しまして、支部の皆様

様方のご理解、ご支援を頂きたくお願い申し上げます。



業界の基礎築く活字発祥の京橋

齋藤喜徳・京橋支部顧問に聞く
風土が持つ魅力

聞き手 栗原浩
日本印刷新聞社社長

京橋支部顧問の齋藤喜徳氏は大正四年二月、中央区の新富、日本印刷会館の向かいで生まれた。今年八十二歳。英文組版およびその印刷では日本有数の腕前をもち昭和五十二年労働大臣から「卓越せる技能者」、六十一年勲六等単光旭日章を受賞している。京橋支部には十二歳のときから嚴父の使いで出入りというからキャリア

ア七十年、業界の生き字引でもある。コンピュータによる情報革命で五〇〇年余の歴史をもつ印刷は激浪をかぶっている。プロとしての心がまよや歴史、文化を日本印刷新聞社の栗原社長からさいいていただいた以下は抜粋である。
(第99号よりの続き)

戦前の最盛期三八〇社

——京橋では大きな会社で技術を習得し独立した人が多かったとか聞きますが、

齋藤 大会社より中堅からのが多いですね。神田あたりでもトップクラスになった人も出ました。昔から印刷というのは人に仕事が付きますので、工場出でなく営業出です。

——終戦で入船のこのあたり焼け残ったのでしよう。

齋藤 残りしましたが、強制疎開が多くて街は三分の一はなくなりました。戦後、京橋支部が集まったのは企業整備で残った方、復員してきて再開しようという人間含め四十五、六。

——その頃で今残っている方々というところ

齋藤 京橋はやっぱ伝統があつてえらいもんですね。殆ど残っていらっしやいます。これだけは他の地区と違つて京橋のいいところですね。

商業印刷で手固く、それから会社といつても、やはり社長の値打ち。株主があつて社長は頼まれ社長というのじゃなくて、ともあれ社長がウチの会社だ、という使命感をもっているところばかり多かったからです。

——戦前の最盛期、京橋の印刷業者はどの位ありましたか。

齋藤 三八〇位あったのじゃないですか。焼けた人が百七、八〇あった。企業整備でそれが壊滅しました。

——いま、二番目の戦後だと大騒ぎしていますが、むかしの不景気と比べたらとるに足らないことなのか、いや、こりやえらいことなのか、どうなのでしょう。

齋藤 長期不況がコンピュータ革命と同時進行しており、長い経験がなくても、印刷の仕事ができるようになるこれから、いいようでて、私は業者には良くないのじゃないのか。やっぱりプロでなければ出来ないというのでなければ困るんですね。ビットと違い活字なんていうのは、非常に化け物みたいなものでして、もう素人が扱おうと大抵失敗いたしました。

——一週間か十日やれば印刷が出来ます、といういまどきの風潮は決して印刷のプラスになりませんか。

齋藤 そうなんです。大きな会社では社内印刷に着目しています。窓際族がいて社内印刷ですから計画生産出来て、営業経費のからからぬそれが結構ソロバンとれるようになるから、電子化が印刷のプラスになるのかマイナスになるのか今のところ見当が付きませんが。印刷のプロがどうもスーパーマンでなくなりました。

本を良く読んだ文選工

——それにしても大変なことだという実感で

すね。

齋藤 えらく今までのとは違って、印刷のプロがなんでもやるんだ、というのじゃなくなっただことは、ちよつとやはり心配だと思えます。コンピュータというものは思うようにいかない。しかし便利ですね。センター合わせは、手打ちの写植でも活字でも大変ですよ。それが事前に計算され簡単になりました。

労働省国家検定の活版技能検定をやったころ、文選なんかでも、高山樗牛の滝口入道を選筆な筆書きで試験問題の原稿にしたとき、労働省から電話が来て、大学出の職員にも読めないこんなもの出していいの、とね。私は大丈夫だ、こんなものが読めないようなら文選一級技能士として通用しないといいました。

技能検定で強かったのは大きな会社の文選、植字工でした。社内で競争にもまわっていたのですね。腕は倍違った。技能検定では文選での脱字、誤字、横倒しは減点されました。上手なのは、もう一つ裏へ文選箱持つていつて逆さにし、ネツキの狂っているのだけ合わせるとアツというまに直ります。だから要領もよくないと駄目なんです。

私の子供のころの文選工というのは、大体、学校の書道の先生なんかより字が余程うまかったですね。本も良く読んでいました。一円位の明治大正文学全集を手離さなかった。だから文体がもうわかる。

技能検定では、いまの滝口入道を出しても間違いない拾ってはいたが、間違ったのは、待

(はべる) はニンベンに寺ですね。それが待つを拾った人が随分多かった。樗牛の滝口入道を読んでもいけばそんなことない。戦後の人はあまり本を読んでいるいな、と思いました。

——文選の実際なんです。

齋藤 文選というのは字を逆さまに拾うのです。下から拾い逆で置いていくのですよ。それから欧文は全部拾い組みなんです。拾って組んじゃう。ですから欧文というのは文選というのがあります。直接ダブルケースとか、キャップとローケースと別なものあれば、ダブルケースでキャップとローケースが入っています。使う頻度の高い字AとかEとかが手元にあります。使わない字は遠くの方にあります。また、ますの大きさも違います。

グーテンベルグの活字精度

——欧文はグーテンベルグ以来の歴史があるだけに仕組に感心しますね。

齋藤 そうそう。これは活字製造のことを書いたタネ本です。ドイツの活字会社四、五社集まって規格こしらえていろいろやったものですね。それから活字の高さを測る測定器があります。グーテンベルグのは、千分の二違ったらあの活字は刷れません。あれ二〇ポイントあるんです。その頃マイクログラフなどないですけども、みんなノギス式で光線で見るとですよ。だから千分の一まで簡単に測れます。あの活字を軽くみるけれども、グーテンベルグの活字精度は千分の一とか二の差をちゃんととってつくつてあ

る。印刷方式が平庄だから一度に押さなければなりません。いくら胴柔らかくしても高低があると弱いのですよ。

グーテンベルグの活字は実に苦勞して、一本一本の活字を手鑄込みで鑄込んでそれで、ヤスリですつて計器ですつかり検査する。

袱紗、桐箱入りの名刺

——さすが偉いもんですね。やはりプロの仕事にまかせとけという存在感がありますね。

齋藤 私の先生の家では、これは戦争前のことですが、その頃は方々の名刺台紙屋さんというのは、京橋区内でも三、四軒ありました。だけど桜井大二郎の屋名刺が一番売れてまして、最高級品というケントでFというのでした。これがケントの貼合わせです。二枚貼つてあるからかなり厚い。名刺の箱が普通の倍位ありました。その頃、月というのがケント紙で、その月を二枚貼り合わせてFというのが最高級品。

最高級品を使うのが大体、社長クラス。私のところでやりますと、その頃、紙代一〇〇枚で八〇銭か九〇銭。印刷代というのが行数が少ないと三五銭から五〇銭位。当時の散髪屋さんの大人の料金が五〇銭位でした。だから結構値段が良いと思います。その位が普通なんです。紙代に印刷代、それにある程度の利潤を乗せていました。売品にして大体、二円前後ですね。高いところが二円五〇銭位かな。

たまたま私の先生のところでは、高級品、とくに財閥の社長用を殆どおやりになり、注文す

るときは自動車に乗った、袴をはいた家令が「御前の名刺をお願いします」と来る。内容はFなんです。箱が違ふんだそうです。桐の箱をつけて紫の袱紗でつみ納める。こんな話しをきいて、先生にいくらとるので、と聞くと、一〇〇枚八円ということでした。ある時枚数を多く受注したので、少し高いかな、と値下げをしたならば、前と同じでなければいかんと突き返されたということです。

——桐箱に入つて紫の袱紗がかかっているなんて、初めてきましたね。

齋藤 外人のいい名刺となると必ず凹版です。浮き出しの名刺は凹版の真似です。外国から来ている会社の外人の名刺は今でも凹版です。凹版をやるのがだんだんなくなつてね。優れた彫り師が伝通院の近くにいましたが体を動かさない、運動が不足して体重が増えて、体を悪くして死去しましたが、この人など欧文を彫刻させると名人でした。

——自ずから組版の美というのですか、タイトルの文字はこうで、見出しはこう、本文はこうといった、これは奇麗といった基準があるのですね。

齋藤 大体むこうでは、この書体はどういうものに使つたらいいか、というようなこともでも指示している本があります。ですから本を余計にとつて勉強すればどなたでもお解りになるわけですわ。

母型の深さ千分の三五吋に

——これは数学の組方。オックスフォードルール？

齋藤 そう、オックスフォードルールはこれからとつたものです。みんな向こうはベイスラインをフォントによつて、ドイツなんか七社で規定している。だからどこの活字使つてもベイスラインが合うように、一二ポなら何点何ポイントか書いてあります。うちはそこで、母型の深さは、六ポは違いますが、八ポから一二ポまでは千分の三五に一定しました。そうしますと九ポの中に八ポの母型が鑄込めるのです。だから中に混じつて、五号などに八ポ入れるとき、ライン合わせて、同じ深さですから鑄込んじやうと五号の中に八ポ鑄込めるから、一度にやれる。それから数字なんかの表物なんかですと、ゼロゼロくついで、ピリオドあつて下に四分が入ると、それまで一本で鑄込むと一度に済んでしまう。

やはり組版やるものと、鑄造がグループになればいいが、ところが組版は組版、鑄造は鑄造でしょう。だからわれわれのような小さいところだと、少しでも便利にしておけば組版で能率があがります。

やはり外国の文字は、ドイツは後からですが良いですね。リジアンという書体あるんですが、それつくつたのアメリカ人なんです。ATFのタイプで売り出したのですが、その人の個人の印刷物を見ると、おれはドイツのルドルフコ

ツポの唯一人のアメリカ人の弟子だ、といつてましたね。

四〇〇年の系図付き活字

——英文の書体めぐりは面白そうですね。

齋藤 英国はオーソドックスでも本当に昔のままやる。うちで買ってあるスクリプトみたいなマドンナロンドなんか、キャスロン系の会社のもんです。これなんかの見本帳、四〇〇年こうやってきたという長い系図が入っているのです。シエフエルドにあり日本というところの堺のような古い町。二階建ての電車が走っていて有名です。

活字というのは、私、組合の役員をしていたころ、大蔵省から頼まれて、それで新聞社が入ったでしょ。だから購入活字は償却が二年になりました。これ買っておきましたは、箱に入れといて使わぬうちに二年たち償却してしまふ。だからいくらか利益のあつたころは活字を買っちゃう。

——英国ではまだまだ活字は残っているのでしょうか。

齋藤 活字は一本なくても刷れませんかからね。はじめの頃は、記号なんかないと、英国では、コンピュータでえらく苦労したそうですよ。だけどだんだん、そういうものがコンピュータソフトに揃っちゃいましたから普通の質を取り戻した。ただ、日本の活字じゃ、今の漢字コードでも、一万二一五六字あるでしょ。校正をよく見てあげないと今、危険ですよ。このあい

だ、結婚式のを偉い人から頼まれたのですよ。ワープロできれいに打って来たから、この通りやれば校正いらぬ、と急ぐからというので、こちらも奇麗なものだから大丈夫だよ、と。それで見たら内村鑑三の鑑が軍艦の艦なのよ。だから印刷屋知りません、でやったのじゃプロとしての見識がないということになる。コンピュータになつてもこれは変わりませんよ。

——外字なんかどうするのでしょうか。

齋藤 どうするんですかね。日本の場合、人名、地名ですね。あんな漢字はないという地名ずいぶんありますよ。大体母型帳だと一万字くらいですね。

——モリサワさんの講演会できいたのですが、漢籍、中国古代文献を組もうとすると三〇万字とか四〇万字ないと出来ない、といいます。

齋藤 だから外国から日本へ売り込むときは困っているのではないですか。韓国は漢字コードはわりと少ない。たしか七七四六ほどかきまします。

——韓国では日本向けにコード化やつていらっしゃるのでしょうか。

齋藤 台湾も多いですよ。たしか一万九六二〇位やつて。漢字は本当に難しい。アルファベットのの方は楽ですよ。だからコンピュータにするならアルファベット。しかし、コンピュータによる文字組版も安くないそうです。ソフトもせいぜい四、五〇万円かなと買うと一五〇万とか一八〇万の請求書が来てビックリするといひます。やはり電算にしてもかかりますね。

四〇〇年余続いた活字がまさか、私の代に活字の葬式を出すとは思わなかった。英文活字を私のように揃えても、世の中これからどうなるかわかりませんが、俸の代になつたらこれだけ持っているところは大会社といえどもありません。小さな印刷所だが、俸一人位は楽に食っていけるといふつもりでやったのです。

日本では駄目だといふものについては、何にかえり見ないですね。

——日本は切り捨てちゃう。

齋藤 これが日本のきつと、いいとこなんですよ。だからこれだけ日本が進歩したのでしょうね。外国は皆残してありますね。今、便利だけど、あんまり便利になっちゃうと印刷屋の領分がだんだん無くなっちゃうのじゃないかと思つてね。やつぱりプロじゃなけりや出来ないという仕事を欲しいな、と思ひます。

いま、丸善に行きますと、電算で組版したのも、かつての活字組版の昔と同じ体裁になってきました。つめ打ちというのは外国で、コンピュータになるときの過渡期にああいうことをやっただけです。やつぱりそんなことはやめてもとに戻すという点、外国の出版社は偉いものです。なかでも英国はしつかりしています。日本ももうちょっと考えないといけませんね。亀倉さんも亡くなつたし、若いデザイナーが自分の感覚だけで、この書体がどんな背景で、何処で誰が創つたか、といった歴史を知らないで使つていてはね。以前のデザイナーは違います。

イタリアの誇りイタリック

ここにあるイタリアの聖書の書体はボドニーです。この書体は大体機械のカタログなどに使うもので、パイブルのような読むものに使うものじゃない。オリベッティーのカタログには、すべてイタリックを使用したものもあります。イタリックというのはアルダス・マニチュウアという人がイタリアの名誉のためにイタリックとしたわけだ。傾斜した書体という意味でオペリックとよぶドイツを除いて、これを創ったイタリアのため世界中はイタリックです。自分の国の誇りは強いんですね。

美しさと可読性が基本

印刷の基盤技術が現在、激浪をかぶっています。これからの印刷をやっていくため、東京で唯一人の国からの「卓越せる技術者」として栄誉を受けておられる齋藤さんからズバリ一言お願いしたい。

齋藤 やはりお客さんの価値に対する確かな目がないと困るんですね。日本人はどうも、いくらいいものをして、解らないところがあるんですよ。ところが女の人は美容院に行つて出す化粧品がフランス製だったら金は余計払いますよ。日本の活版のものでは、はっきり言って例えばいい材料でやっても判つてもらえない。英文名刺なんかの場合、使つてはいけない書体とか、組み方のルールがある。英国などくに頼み。ところが意外に知らないで使われている。

価値のわかるのは外人の社長。これからお客様のほうでも、良いもの悪いものの印刷物の見分けをしてもらいたいですね。

それと同時にやっぱりプロは、プロでなければ出来ないという徹底したところをこの印刷業界に残してもらいたいですね。素人で出来るようになったら、印刷界は希望がなくなっちゃいますね。プロでなくちゃ出来ないものが結構あると思いますよ。

ただ、文字さえ並べれば良いというもんじゃありませんからね。

——あまりにも今は、デジタルの方に目が向いていますからね。デジタルを本当に知るためには基礎技術・アナログを本当に知りませんと駄目なんじゃないか、と思います。

齋藤 そうなると、やはりプロの力が一般がやっているのとは違う、というところを見てもらいたいですね。

——アナログのルールをデジタルにいかにか活用するか、ということになりますね。

齋藤 外国の書籍の場合、美しく読みやすいものが基本です。一般の読物になるとホワイトスペースが、あの白が巧みに設定されており、見事な組版は読者をして実にゆつたりと読ませる美がある。もつとも仮装丁で読者が自分のセンスに沿つたように製本してますね。フランスでもイギリスでもどこにいても。日本でもああいふ感覚が書籍にも欲しいですね。自分で特別の表装業者に依頼して自分の好みにあつたいいものをつくることも必要でしょうね。これ、

とても大事な文化だと思えますよ。

プロはこれだけ違うものを作ります、という年期のはいつた質を見せる場がこれからほしい。

——良いものを見せる場が本当に必要ですね。まったく同感です。貴重なお話ありがとうございます。ありがとうございました。(終)

地区だより

曇りのち雨、

とはいえ心は薄日和

入船地区 長崎 茂

その朝わずかだが集合時間に遅れてしまった。亡き祖父は創業者で長崎家中興の祖といえる人物だが、もはやご存じの方もいらつしやらない。父はこの界隈でも語り草の頑固一徹な男。人となりは私以上に皆さんがご承知のはずで、三代目になる私はというと、嫌々ながら父から仕事を覚えさせられ、今日に至っている。そのせいでもあるまいが、和気あいあいの「入船研修旅行会」でスタート時点から水を差す格好になった。

「お待たせして申し訳ない」

父を良く知る齋藤さんはじめ諸先輩へ素直に

頭を下げた。

とはいうものの、それだけで済ませられるものなのだろうか。齢五十を過ぎて「長崎の坊ちゃん、…」という声が聞こえてきそうで、何とかしなければならぬのだが。熱心な後輩であると、先輩から思ってもらえるような言動を心掛けねばいけない。

紅屋オフセット川本工場に向う車中でも、心は晴々としてこなかった。折からの雲天。素晴らしい最新の回転機を見つめる私の目は、暗くシヨボシヨボしていたに違いない。

これが私の悪い癖なのである。よくいえばオトリっていて、なかなか切り換えができない。鬱々たる思いは赤城高原ドイツ村で水野さんの怪し気なドイツ語を耳にしても、懐石さつき亭で旅装を解いた後も、晴れることはなかった。(訂正…思い返すに水野さんのドイツ語は達者で実に見事なものでした。失礼!)
夕食では川本工場の妻さがやはり話題にのぼった。

「これからオフ輪は大競争時代だな」

「我々は輪転以外の仕事をいかにつくっていくかしか道はない」

まだ酒も回らないうちのことである。例えば父が社長をしていた昭和四十年代頃、組合員数は二百八十社を越えていたという。私が社長ホヤホヤ時代ですでに二百五十社を切り、現在は二百十社あるかないかであろう。

「要は仕事のやり様さ。人は人、我々は我々よ」
「中央区はもともと印刷では伝統のあるところ

なんだから。これからも皆んなで力を合わせて勉強していこう」

やがて仕事回りの声はきこえなくなり、夕食は宴状態に移っていった。外は今にも降り出しそうな空模様のはず。その雲行きを吹き消す勢いで、意気軒高な研修会になった。

しかし私だけは夜の雨を浴びているような具合だった。仲間内でよく指摘される、イタズラツコ風お坊ちゃんスマイルは一度も出なかったはずだ。その証拠に浴衣姿の記念撮影でも無理に作り笑いをしている、我ながら大人になりきれない男だなと思ってしまう……。

と、陰々滅々たる状況を並べ立ててきたが、実は遅刻以外にも原因があったのである。

ただし断じて夫婦喧嘩ではない。神聖なる「入船研修旅行会」である。私は日頃から仕事に仕事以外のことを持ち込まないように努めている。すなわち原因は仕事そのもの、それも新規クライアントにまつわるトラブルだったのである。

内容は企業秘密で明かせない。具体的には申し上げられないが、クライアントは必要がない仕事は頼まない。些細な仕事でも、きちんと納品してゴクローサンである。当初はその対応を私がするしかないと考えていたのだが、担当チームの中から、あくまでも個人レベルで先方の責任者にまず相談してみたい、との提案が出てきた。

それが、スマイルのない、浮かない顔の、もう一つの原因だったのである。



弊社では昨秋から新しく開発営業部を設けた。このご時勢にあえて新規クライアントの獲得に乗り出したわけである。印刷業界は言わずと知れた大不況、価格破壊。おまけに、弱肉強食どころか肝心の肉がない有様。印刷の仕事も自分の代でお終い、半ばアキラメている同業者も少なくない。私自身にしても、長崎四代目はないなと感じてもいた。

しかし、それでいいのだろうか。このままで構わないのか。その自問自答の繰り返しが開発営業部の新設だった。

汚い水、苦い水にあえて飛び込む。その思いの発端は、諸先輩のグチだった。私もグチでは鶏頭となるも午後となるなかれである。だが入船界隈に限らず私がお世話になってきた方々のグチには正直、午後。師のカゲを踏まず、そうですねとうなずくしかなかった。とはいってもこのままでもいいのと例のイタズラ坊ちゃんの鼻息が荒くなってきたわけである。

時刻は十時を回った。そろそろ昼の研修の疲れが全員の眼りを誘い始めた頃である。私はそつと席を立って担当者と連絡をとった。

「おまえの思う通りにやってみよう」

迷った末であったが、結局、現場をよく知る者の判断に任せることにした。元気の良い返事の後に、

「社長、研修旅行中ですからケイタイは切っておいてください。留守電に報告をいれておきます」

と、あくまでも元気が良い。

作戦は、日曜のブランチャタイム、午前十時三十分キツカリに、クライアントの責任者を訪ねるといふ、いたってシンプルなものである。

翌朝、榛名湖から竹久夢二記念館にかかるあたり、いよいよ雨は本降りになってきた。昼食はすっかり濡れそぼった水沢観音のそばで。

ただし、その頃、私の心には薄日が差していた。留守電にいわく、

「全てこちらの希望通りに取り仕切ってくれることになりました。ご心配かけてスィマセン」昨夜のことがカラ元気にならなかったのを、本当に喜んでる風な声だった。仕事は闘い。久し振りにそんな言葉を思い出した。

心の中が薄日和になるとゲンキンなもので、そういえば昨日見学させてもらった紅屋さんの川本工場は凄かったなと思いついていた。帰りのバスの中で会長・社長のお言葉がのっているパンフレットを二度三度読み返したほどである。

人の理は三つ、論理と生理と道理。これからブームになりそうな夏目漱石の『草枕』のセリフではないが、知理だけでも、人間関係の原点である情理だけでも、仕事はうまくいかない。やはり道理を基準に判断すべきではないかと近頃は考えている。

うまく言えないが、道理とは、知と情のどちらにも偏らず、厳しくそのバランスを保つことではないだろうか。

紅屋さんのお言葉の背骨には、やはり道理がある、と私は感じてしまう。薄日和はあくまで

も薄日和なのだが、この心持ちを大切に、これから起こるであろう新たなトラブルに立ち向うつもりである。どうぞ、三代目長崎をこれまで以上に温かく見守ってください（今後、懇親会出席するようにします）。



支部の動き

4月2日(木)本部支部長会(15時)於・本部会議室、十文字支部長出席

4月3日(金)内定新役員初顔合せ会(18時)於・都寿司

4月14日(火)部長・監査・地区長会(11時~14時)於・支部会議室

。5月18日(月)の通常総会開催準備について

。平成10年度電子化教育事業について
。その他

4月17日(金)部長・監査会(13時30分~15時30分)於・支部会議室

。平成9年度収支決算報告、財務の執行状況報告

。平成9年度決算に伴う一般会計の監査

4月22日(水)京青会定時総会(18時30分)於・築地スエヒロ、十文字支部長出席、新会長に森山昭明氏(株森山印刷)を選出

5月15日(金)本部通常総代会(14時)於・赤坂プリンスホテル「新緑」、十文字支部長他出席

5月18日(月)通常総会開催(18時~19時)於・銀座東急ホテル 司会 永井副支部長

。開会のことば 福田副支部長

。あいさつ 十文字支部長
。議長および副議長の選出

。議事
第一号議案、平成9年度事業報告 榎本副支部長

第二号議案、平成9年度収支決算報告 山崎副支部長

平成9年度監査報告 山内・宇津木監査

第三号議案、平成10年度事業計画(案) 榎本副支部長

第四号議案、平成10年度収支予算(案) 山崎副支部長

第五号議案、次期役員承認 推薦委員会 石澤委員長

。新支部長あいさつ
。議長および副議長の解任

。本部退任役員への感謝状の贈呈
。来賓あいさつ

東印工組理事 中村守利殿
中央区長 矢田美英殿

中央区工団連副会長 小薬忠昭殿

。閉会のことば 山内監査

懇親パーティ(19時~20時)、会費1万円 進行 青柳副支部長

挨拶 十文字支部長
。東製工組京橋支部長 岸田俊辰殿

乾杯 京橋支部顧問 田島一弥殿
。歓談

中締 京橋支部顧問 斎藤喜徳殿
5月22日(金)京橋製本協同組合総会(13時30分)

於・労働スクエア東京、水野支部長出席
5月26日(火)中央厚生事業協組総会(17時)於・ロイヤルパークホテル、水野支部長出席

5月27日(水)水野新支部長・TV出演(放送14時~14時30分)NHK教育テレビ「スクール五輪の書・科学の巻」印刷史上最大の

マスメディア

6月4日(木)本部支部長会(15時)於・本部会議室、水野支部長出席

6月7~8日(日)(月)98年度中央区工業事業主・優良従業員宿泊研修会開催、於・鴨川グランドホテル、新日本製鐵(株)君津工場見学

6月11日(木)部長・監査・地区長会(11時~14時)於・支部会議室

。顧問・相談役・参与の会開催について
。支部長会報告事項

。電子化教育研修会について
。「京橋の印刷」101号の発行と内容について

。支部組合員名簿の作成・発行について
。副支部長の担当制について

6月12日(金)中央区工団連定期総会開催(16時)於・区立中央会館7階、水野支部長他出席

6月26日(金)顧問・相談役・参与の会(17時30分~19時30分)於・銀座東武ホテル「芙蓉の間」、会費1万円

7月2日(木)本部支部長会(15時~17時)於・本部会議室、水野支部長出席

7月9日(木)部長・監査・地区長会(11時~14時)於・支部会議室

於・支部会議室

。支部長会報告事項

イ. 組合財政立て直しについて

ロ. 本部・支部会計担当者の情報交換会
開催について

ハ. 各種教育事業について

ニ. 時短自主点検事業について

ホ. 敬老の集いの開催について

ヘ. 情報ネットワーク事業について

ト. 活性化対策事業について

チ. 「プリンテック'98東京」の開催について

。各種委員会報告事項（組織・構造改・出版・商業・事務用・小企振・管・営業教・生産技・労務・環境保・厚生・資材）

。「京橋の印刷」101号の発行について

。支部組合員名簿の作成、発行について

。新年総会会場下見を兼ねた工場見学会の開催について

8月18日(火)役員納涼勉強会開催（16時〜）於・支部会議室、三井物産グラフィックシステム(株)の協力による「印刷業における差別化戦略」と題して

。印刷業における通信「通信の種類と利用法」

。DTPデータ・アウトソーシング「DTPデータベースMedia Bankについて」

。オンデマンド・プリンティング「マーケティングと連動したシステム」

支部員の異動

・加入組合員

。新川地区、プリントネットワーク(株)、松畑日出夫氏 4月

。湊地区、(有)みのる印刷舎、中谷實氏 4月

・脱退組合員

。渡辺印刷(株)、渡辺文男氏（新川地区） 4月

。(株)豊林社、加来萬秋氏（湊地区） 6月

。尾賀印刷(株)、尾賀正義氏（入船地区） 7月

お悔やみ申し上げます

▼銀座地区

(株)文海堂会長、

松岡繁夫殿御逝去（4月）

▼築地区

(株)双葉印刷社会長、

三森金雄殿御逝去（5月）

編集後記

平成10年度電子化教育事業が4月より実施され、京橋支部の参加実績が他支部を凌駕しているとの話を耳にする毎、どうした訳か事務局としても鼻が高い思いをしています。当教育事業の成果が一日も早く経営実態に反映し、発展を願わずには居られない思いです。

(横田)

